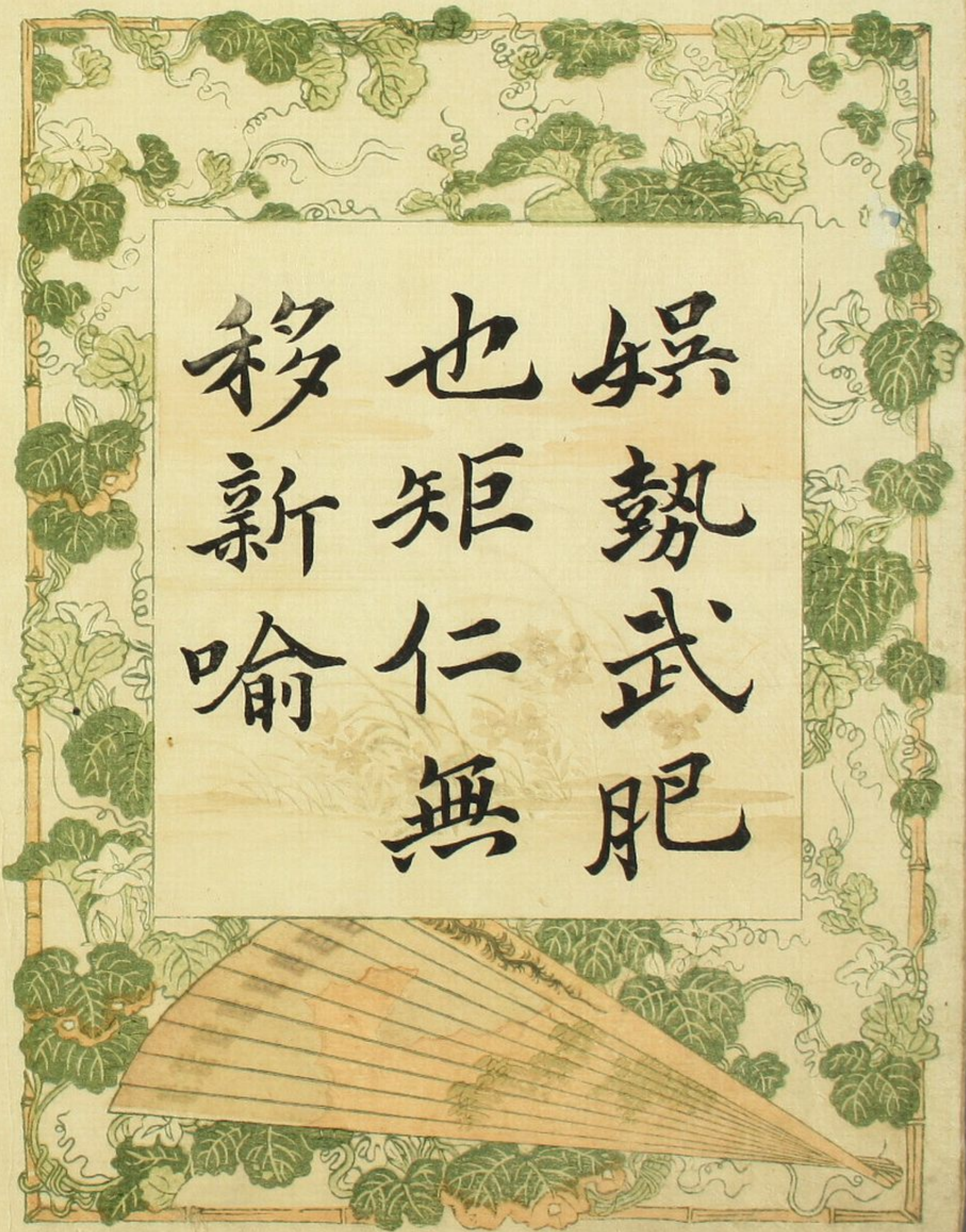




後撰百人一首
全



移也娛
新矩勢
喻仁武
無肥

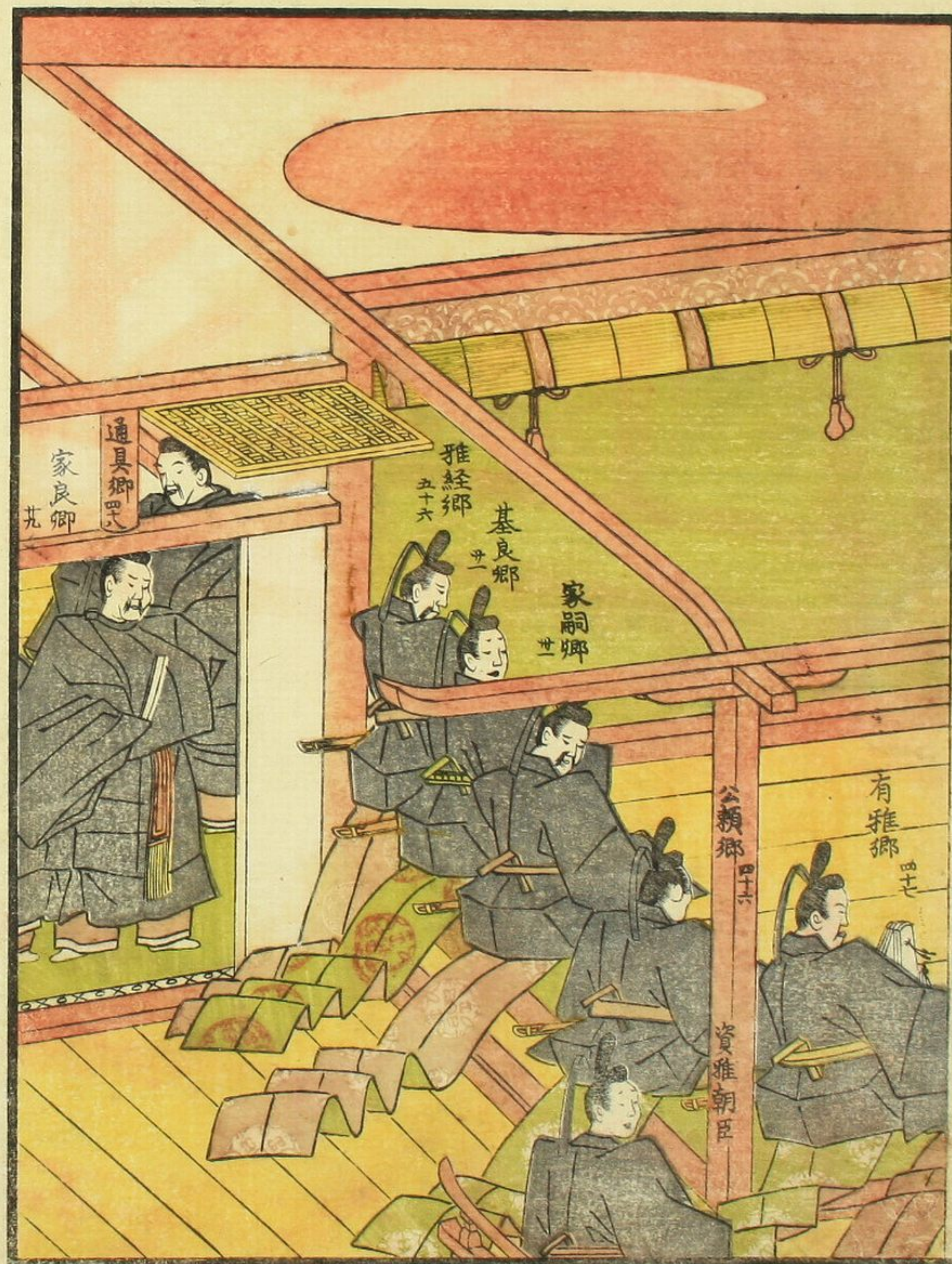
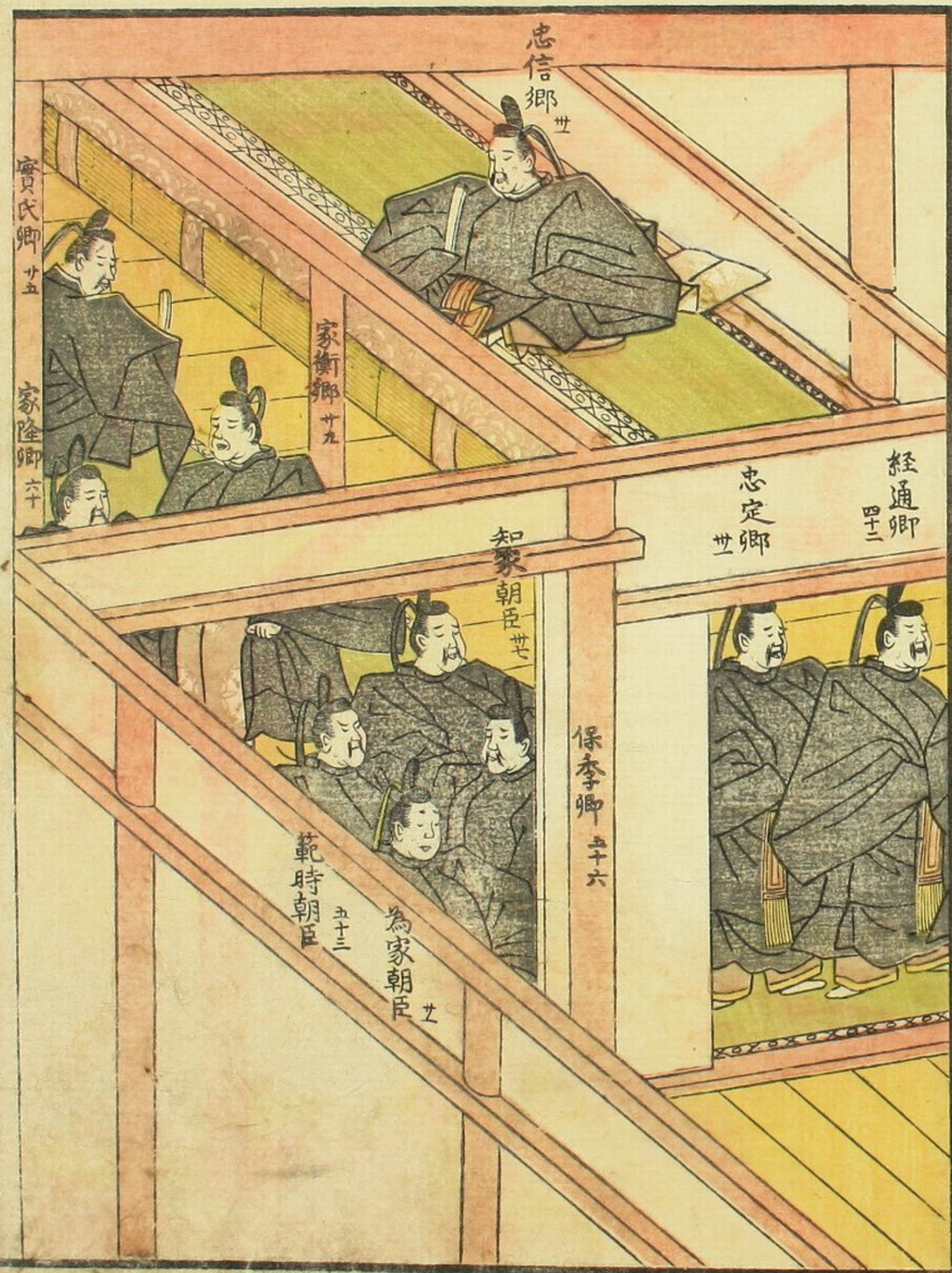




皇武乃々いより君臣上下に及ぶに
 一なるを以てこれより其の
 後菅光流孫政殿下と唯孫乃中流下せし
 ねり一師の事の時京極中納言の流りやなせし
 天曆の流門より此乃君臣の事なりて
 時代の事なりはよき事にして
 かいの事なりはよき事にして
 高の事なりはよき事にして
 後撰百人一と名はせし
 大史れきより長門の玉阿武乃喜日の
 事なりはよき事にして
 事なりはよき事にして

右文庫

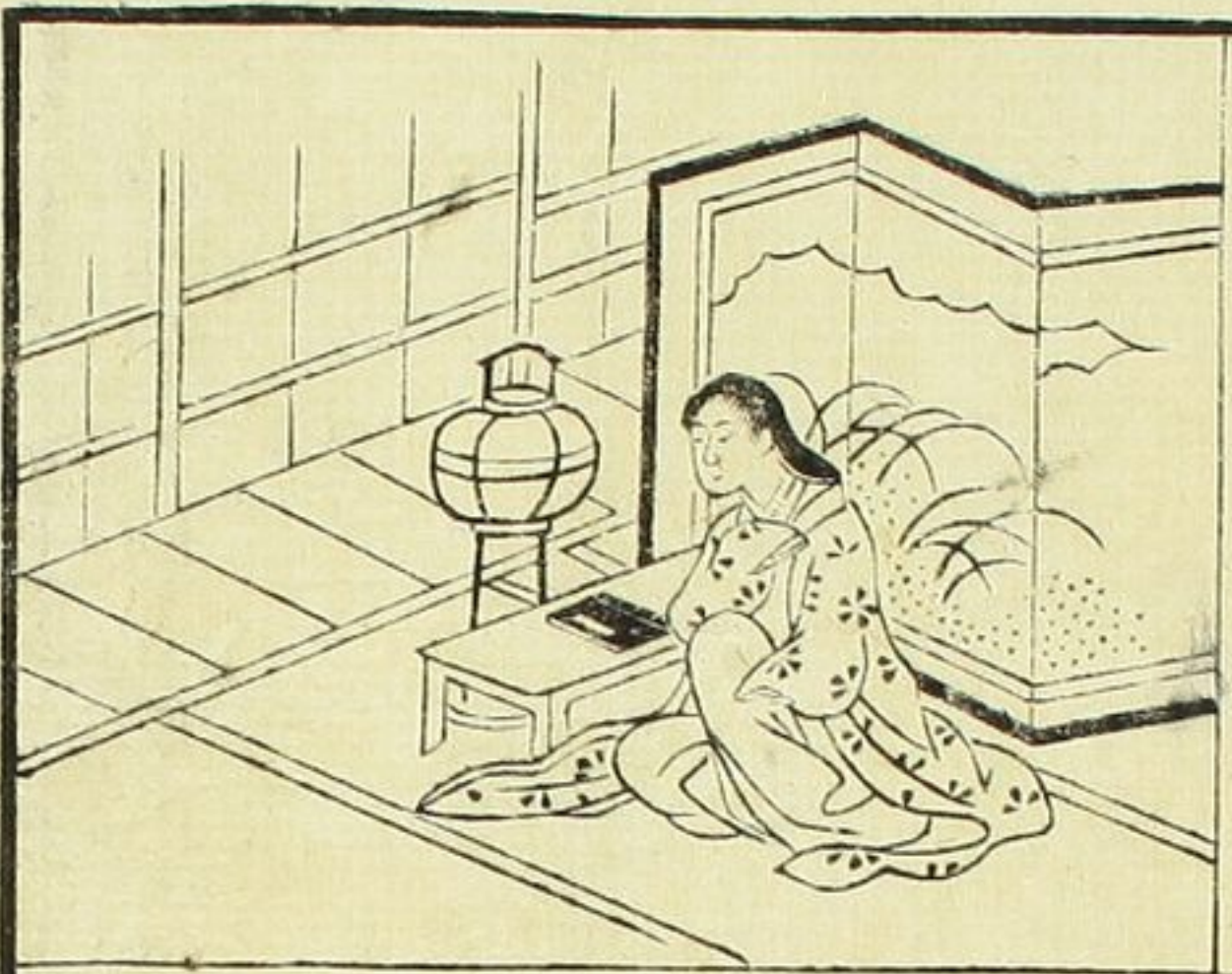




巻書に抑むるに
河内守中納言の賢
夜入道公の
始の世
と集むるは後
の石と好し

と集むるは後
の石と好し
と集むるは後
の石と好し
と集むるは後
の石と好し
と集むるは後
の石と好し
と集むるは後
の石と好し

○此歌のころはこころいん
 といひしはつらうとてを
 りしむひのあやふ此
 夜がむなしく明しはつら
 せんとしむいふまはつらん
 けほふかんなまたのれあ
 けふのころはつらうとて



あの大酒
 沖女
 心は
 思ひも
 こそば
 けふの
 夕暮
 みれ夕が
 乃の

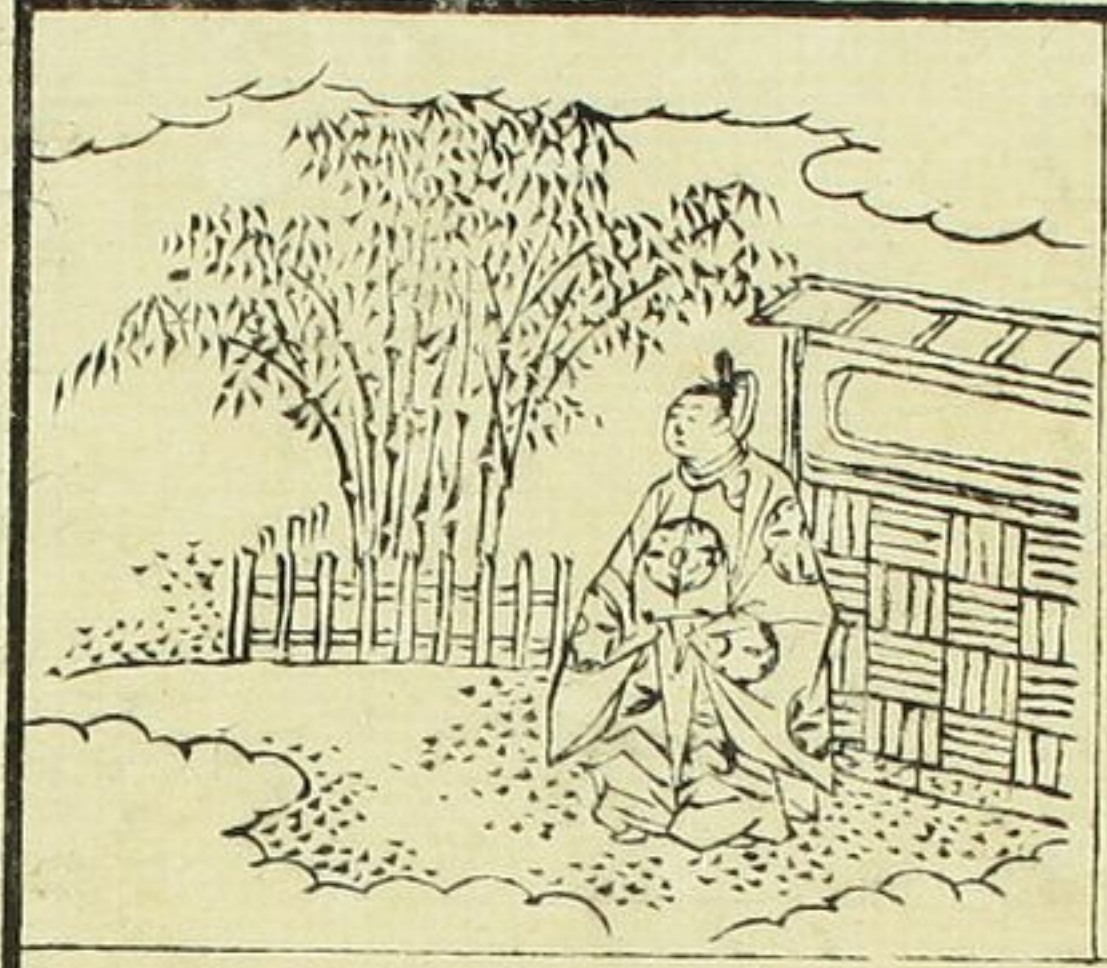


○本曾の作板八信濃の
 所なり谷風乃ふきの
 とし詞源氏物語より
 出たり○歌のころはま
 首のゆ板板のり
 のゆき谷より吹あ
 風より吹く梢もあ
 めむ板板のりゆれま
 めてこそはなま板
 とりてなれそふき谷
 けけけけけけの梢も
 ころはつらうとて
 あふふふふふのあふ
 つけ下ふむむむむむ
 けけけけけけけけ

鴨長明
 乃が
 木
 の
 花
 みふれ



○百敷ハ禁中御ちゆうご一いち藝ぎ姑こ
 射や山やまハハ仙せん人じんののすすままらら
 ののゆゆまま仙せん洞どうのの序しよゆゆまま
 たたととてていいつつ○此こ御ご歌かのの
 八はち仙せん洞どうのの千ち代だいももささののええ
 異い竹ちくとと禁きん中ちゆうののいいしし
 してしてふふちちはは流りゅうんんととまま
 せせれれままつつななりり。



○家いえ路ぢハハいいまま家かへへつつたた
 そそのの木き柄へのの朽くももいいまま
 ららハハ王わう質しつとといいふふ人じんののまま今いま
 仙せん人じんのの基き柄へららつつるる松しょうははおお
 たた間まららつつままつつてて一いち柄へてて
 ももららたた斧きりぎりすのの柄へ朽くるるなな
 りり朽く木きハハ松しょうハハ近ちか江え名な和わ
 歌うたののううららハハ朽くれれははとと
 いいくく夜よもも家かののつつららももまま
 すすれれももいいままのの仙せん人じん
 のの基きははええつつてて斧きりぎりすののええ乃の
 朽くももいいままののつつららももまま
 小このの朽く木きのの松しょう乃の月つきととええ
 るるここののつつららももいいままのの故こ事じまま
 更さらににああつつてていいままのの故こ事じまま
 更さらににああつつてていいままのの故こ事じまま

花園院



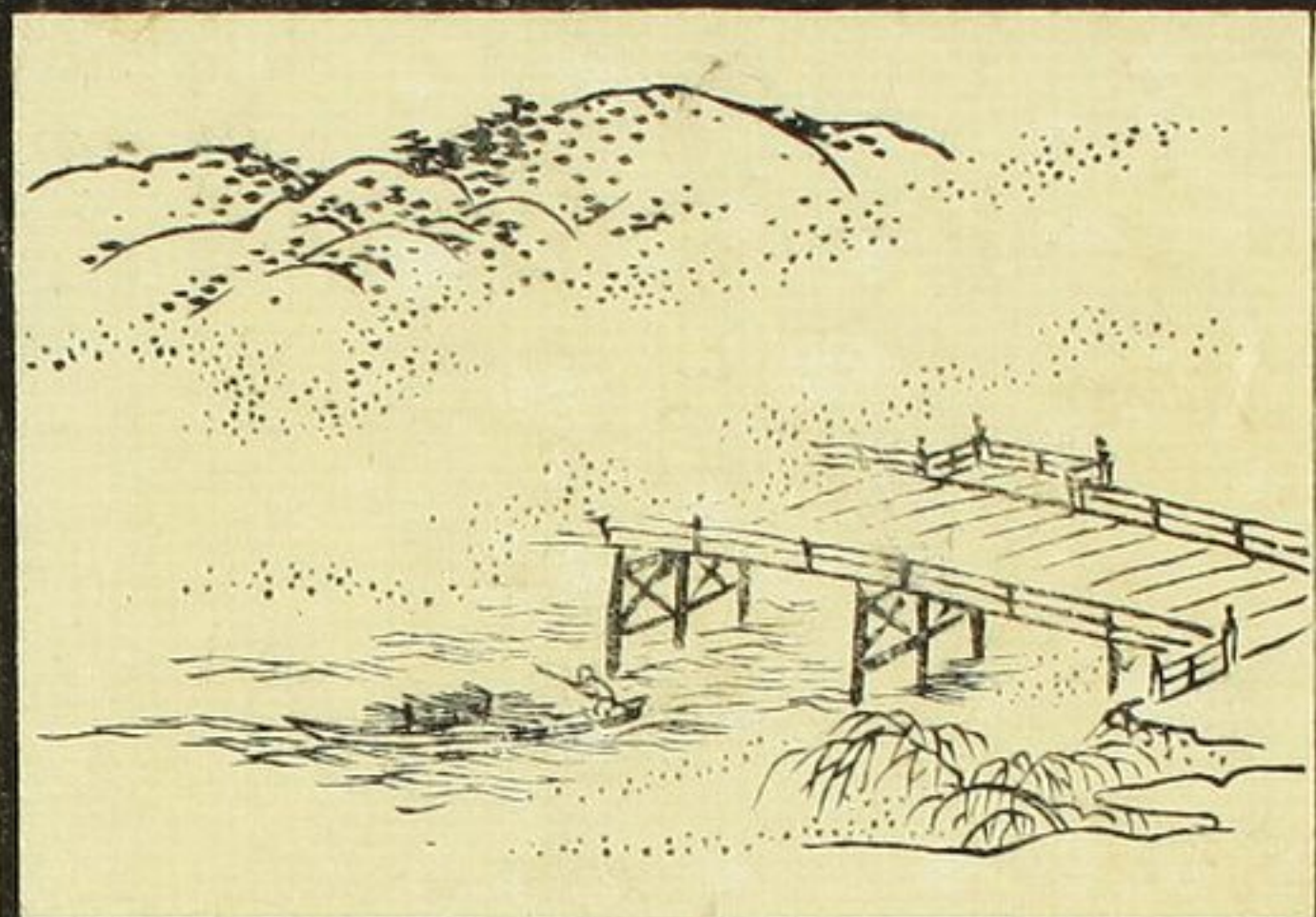
後七

法原海解



貴き取とりり
 家か路ぢのの月つき
 斧きりぎりすのの月つき
 朽く木きのの月つき
 ううららのの月つき
 美みるる月つき

○朝日山も宇治も山城乃
 名所なり。○歌の意ハ朝日山
 の山隈ハ宇治川の紫つづ
 小一面ハたちまちの務
 の下ハ宇治川の紫つづ
 舟のゆけしなよあり



○手向山ハ大和乃名所也
 秋のたむけの山とつげ
 手向山ハ大和乃名所也
 秋のたむけの山とつげ
 手向山ハ大和乃名所也
 秋のたむけの山とつげ

権大納言資明



朝日山
 宇治川
 のり
 舟

秋子内親王
 橋津



秋のたむけ
 の山の
 ちみ
 ちみ
 ちみ

○いづれはきいりてなす
 りんご。○歌の意ハすて
 このおのひのついでに
 そのかたがきりてすのちを
 きつて海もきびしくなる
 めかれ秋の夜の長きや
 うまそて。わづらひを
 す。ゆいなんぢうらなれが
 まるく。らうらうらうら

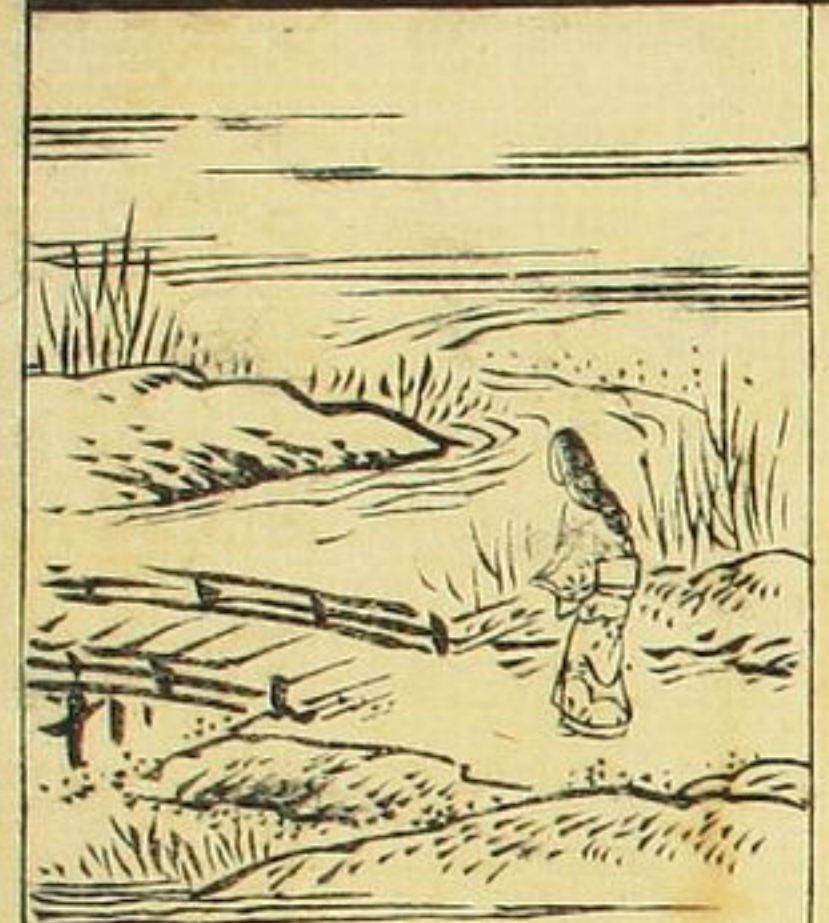


藤原忠房

そりぐれ
 あそ
 秋乃
 夜の
 那が
 紅
 毛



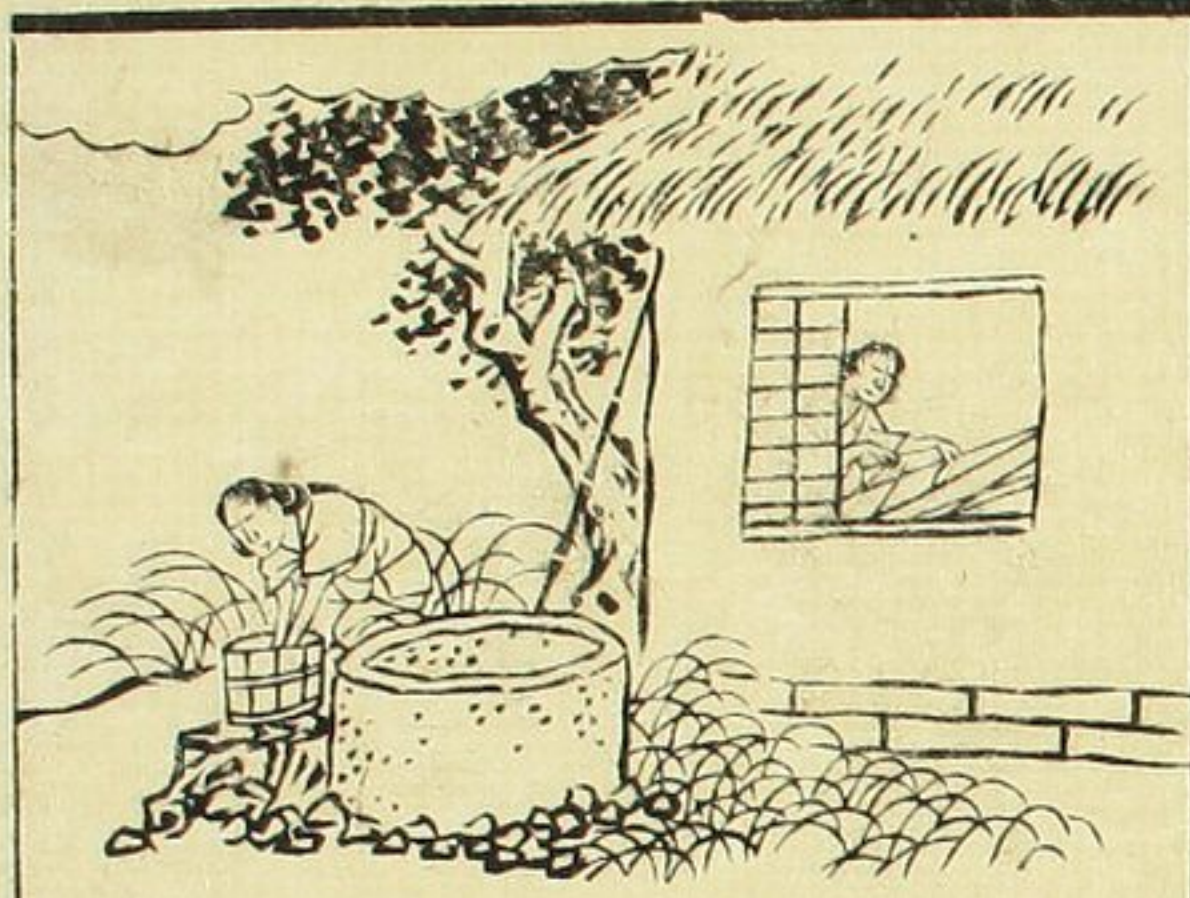
○淀のほぎけハ津の國の
 名所なり。○歌けうらハ秋
 恋ハちねはてまおしん
 よえりまのハ。れいものうさ
 橋が幸ねまきまけけの
 朽て。しらあや。あや。あや。あや。
 絶えり。あや。あや。あや。あや。
 人うま。あや。あや。あや。あや。
 舟の中絶もやせん。あや。あや。
 あや。あや。



光厳寺入道前攝政大臣

あや
 らぬ
 舟
 那

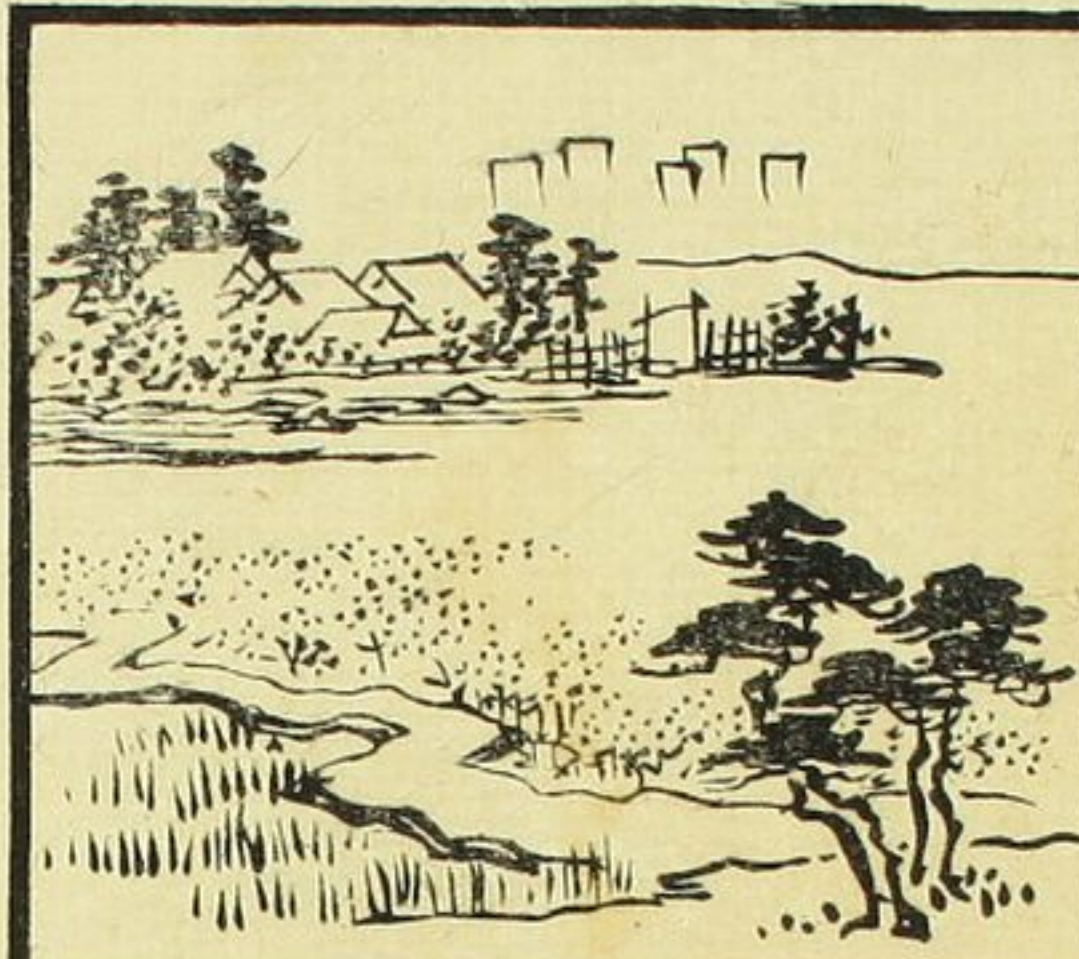




○此歌の意ハしふもかく
 るもうさむのうらふじん
 同世界乃か〜ひがた
 も〜我と〜身知〜
 ハせぬ〜とめ〜
 ハす〜と〜ハせぬと
 ころのて〜はなり



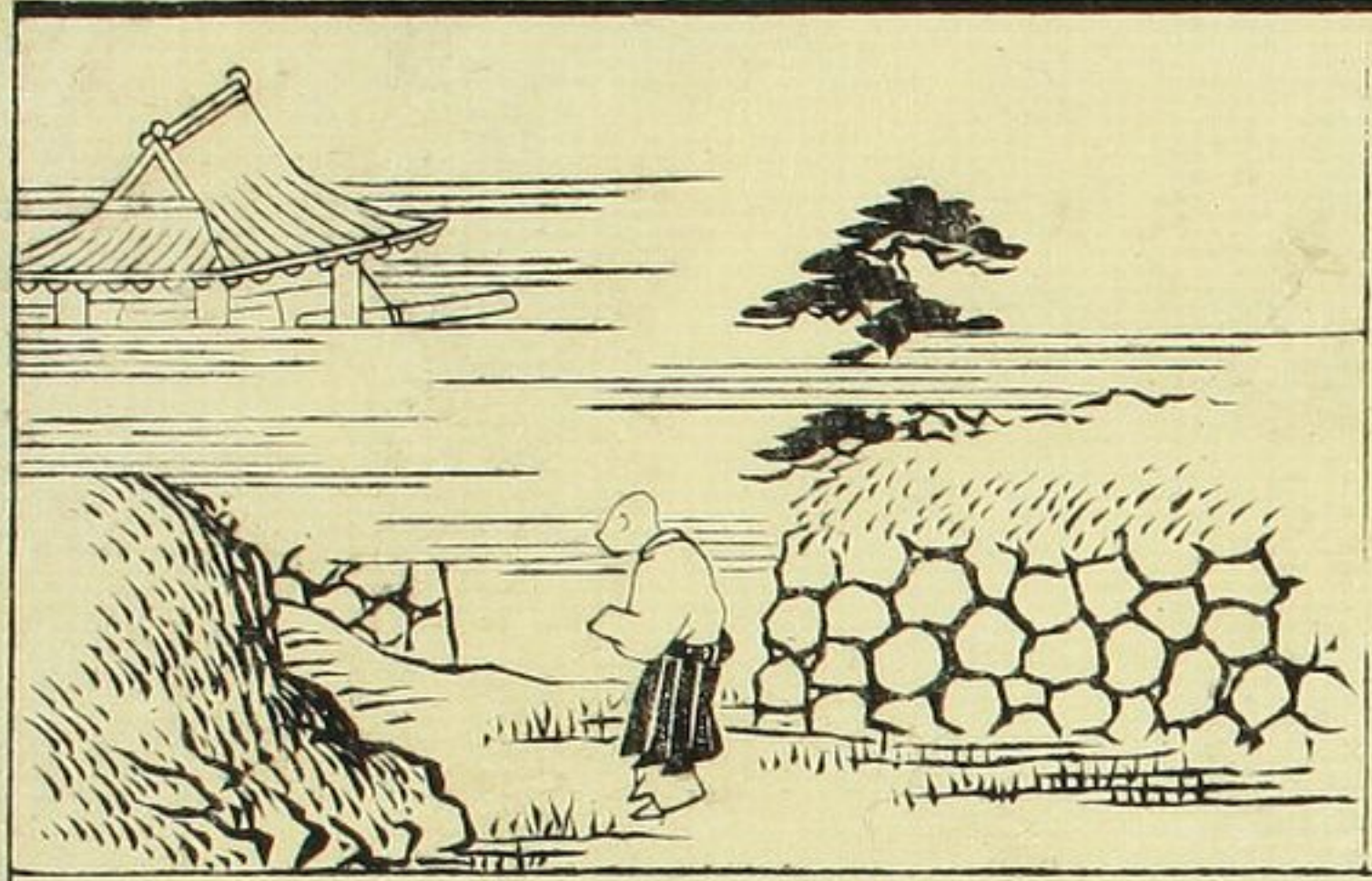
平新海女
 春の
 けしき
 うらや
 ありす



○遠里小野ハ古吉作
 きたるあまのほのまの
 かなるの歌の意ハす
 しの松のうら〜
 う方う〜あむや
 小見ゆハ遠里小野の春
 の明ほのけ〜
 ありなり

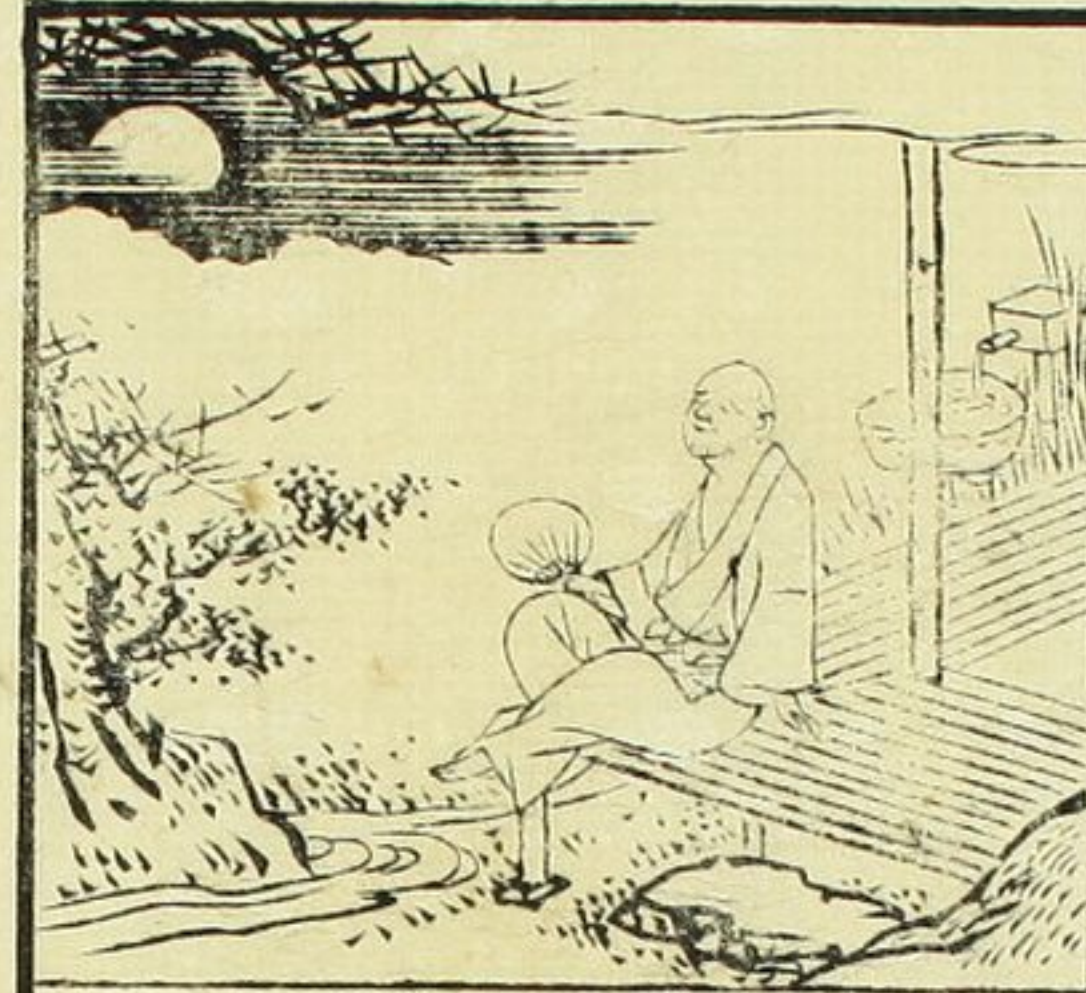


遠里
 春の曙
 松
 法師



○此歌乃意ハ荒乃ハハの
 とくはゆきまきけりこき
 るてまて夜の明やうま
 糸のほのくえん春の月
 のけきれあひるいんあ

前大納言の家
 の音
 糸のほのくえん
 春の月
 まの
 月



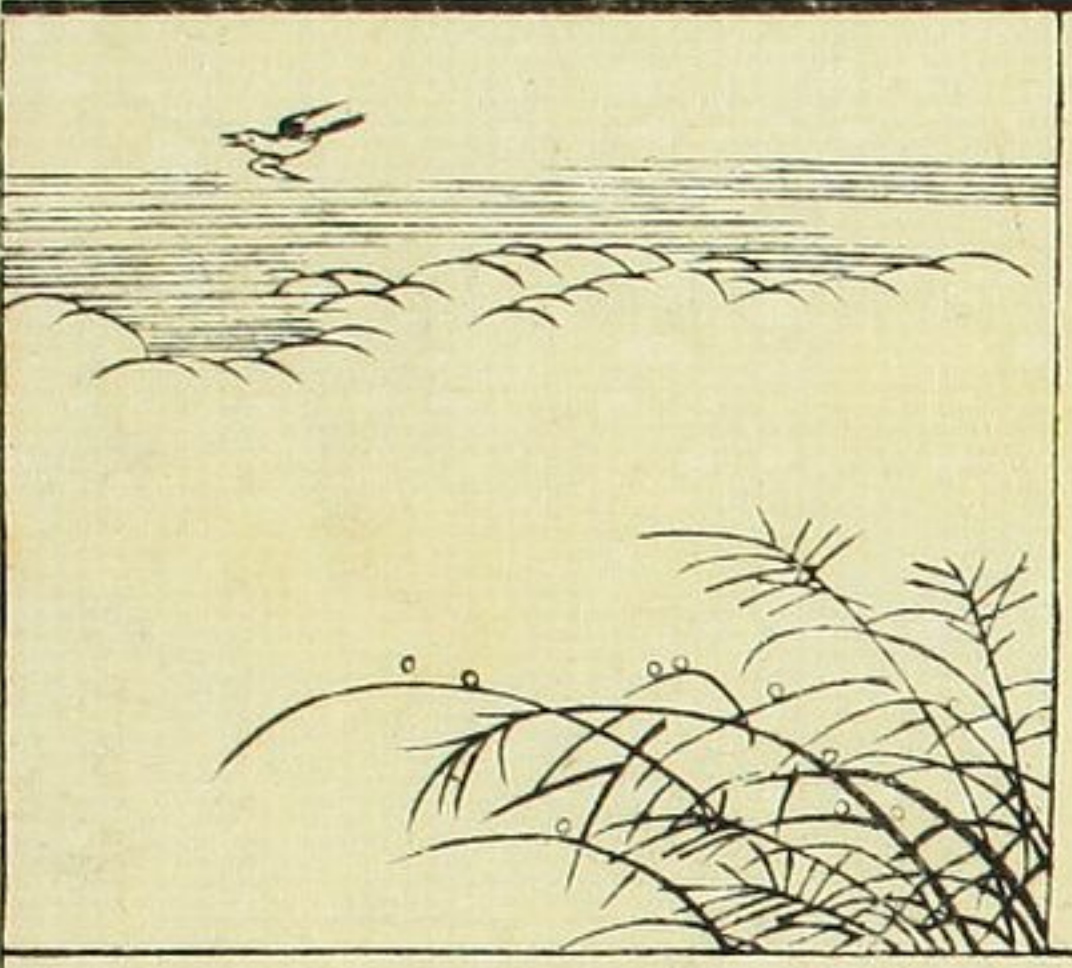
○昔乃たりハ出家
 人の衣袂シナリ。○歌の
 意ハ秋去家セハハ
 ふとむしとあまのふん
 のおとろくろけむし
 秋の月ハ今ハ昔乃
 衣のほのくえん
 こしよしよし

法眼行舟
 忘れ秋
 昔の秋
 月

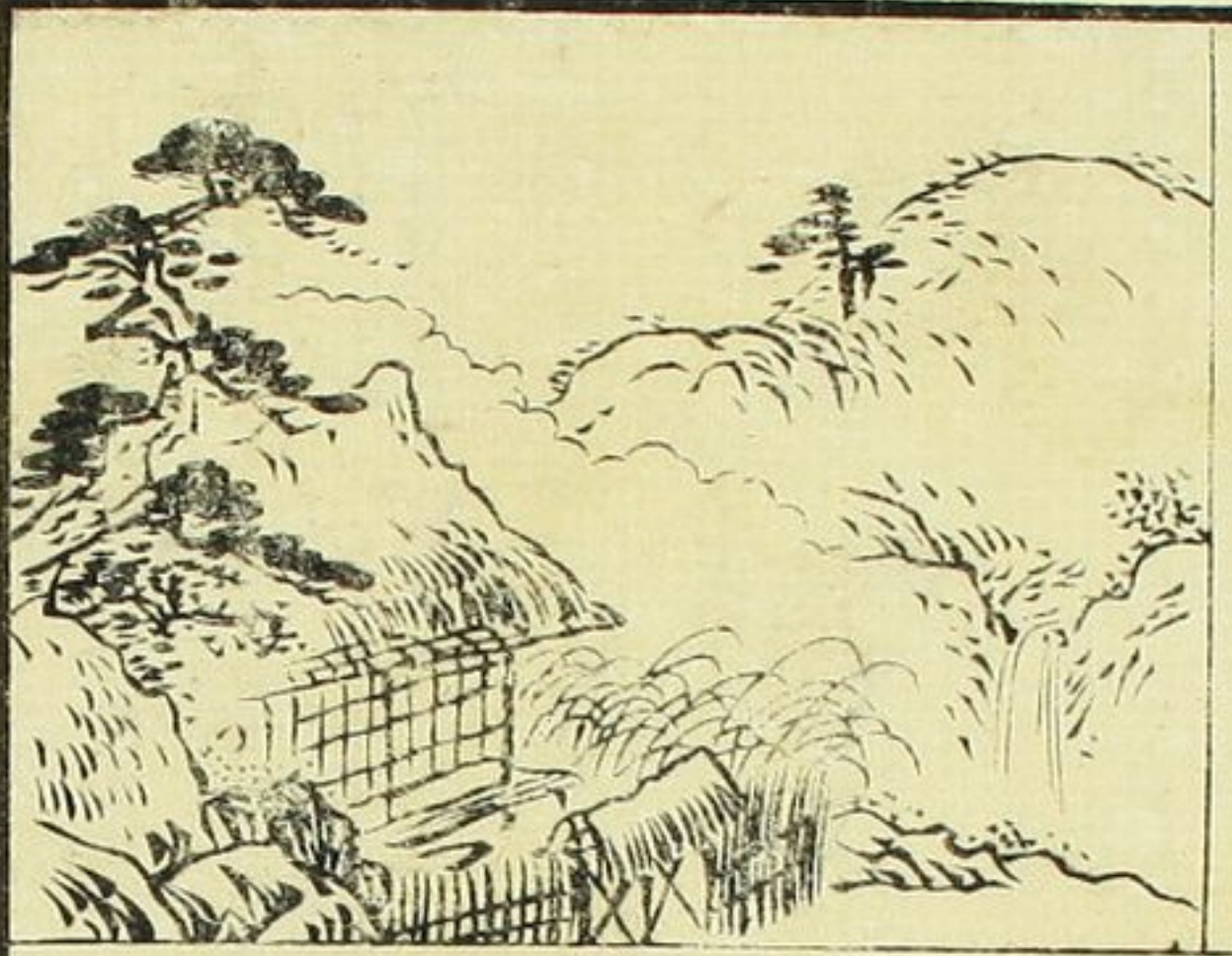
○この世は... 伊勢物語
 ふかす...
 すう...
 ら...
 歌...
 志...
 つ...
 杜山城の名... ○歌の意...
 時... 四月...
 の...
 て...
 の...
 衣...
 かり...



○信夫の杜ハ陸奥の名也
 なり。○歌は意ハ時を
 四月の比ハ春のびねと
 比ゆりよかなぬものか
 らけきかたのひて
 一ふのふの杜の下
 うつ... えぬ...
 け...



○此歌の意ハ山後よほ
 月をむすいて信風情ハ人
 こより進ずともうさ世よ
 まじりてはつたかゝるも
 と我人のうちれは後もあま
 かしげまゝそ世のぬ
 こころよりこころとあま



あゝ院四條
 唐しめ
 すまはな
 人に
 みえは
 うほの
 うほの山
 うほの山

後廿二

○こまハ冬れしめのは
 速懐れらるは
 秋しそしたる。○歌のこ
 ろいこのふひーきさよの
 すしよ。時雨かゝるの
 足進はさハな〜て。
 本れふかゝるや〜す
 なるものねれハ〜のね
 いひれあ〜身な〜しよ
 うれ本乃ふれり音よ
 つけても〜の〜な
 月〜後〜神のぬ〜
 うれしよあまよれよの音
 小神のぬ〜す〜
 かしげのねらき〜

藤原公成
 木の
 津の
 めら
 使那

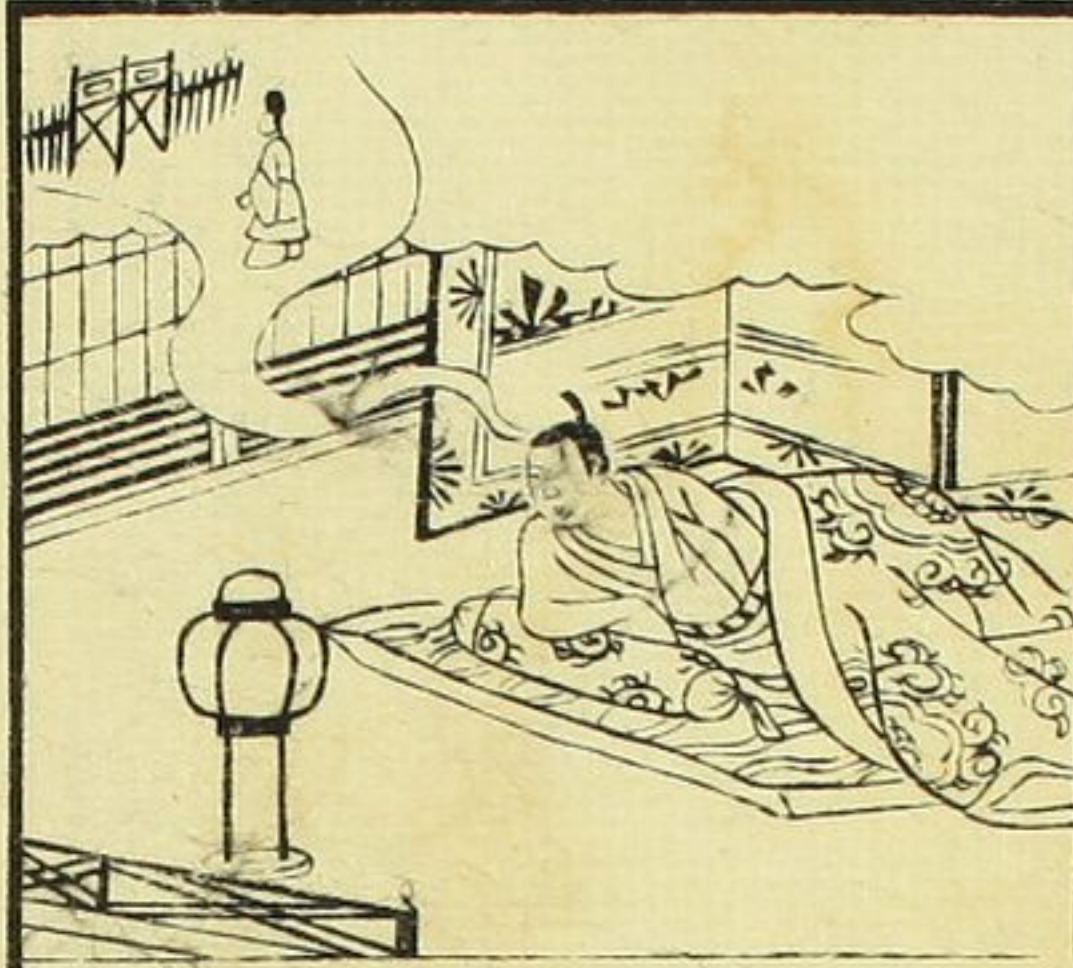
◎まふらふこゝハ真澄の
 鏡しききてすみきうた
 くもアのたこ鏡とよ
 後ハ塵のくまはらりあ
 くれむ下れ向又らアもく
 ちぬくもあう。◎歌のん
 ハ池水れふまきまれん
 けふのうすこころ。月
 がのりしれたまこと
 塵ほくもりのぬ秋の
 夜れ月く足ゆふしよ
 ませたまア。すまきみ
 ハうけてる。このなれ
 すまらた。池あれよ
 ひろてと。い。なり。



◎世しむふハ世しむも
 小のゆもさうりれなま
 ◎歌の意ハのまてしり
 ちうりもなり。れん
 毎月。れも。ろれん
 あり。ハ。て。て。て
 の川れまのま。は。や
 小たの。が。中。なり。



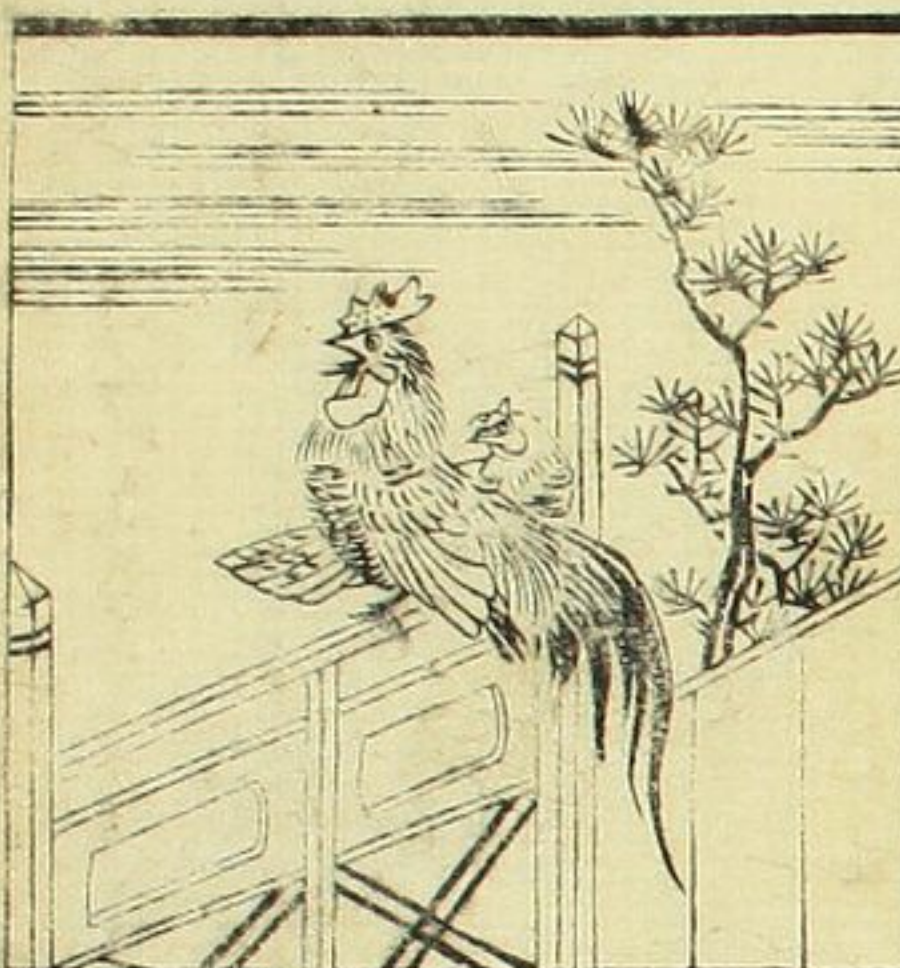
○現しくハ況左のゆゑま
 のうりたのなまゆの歌
 の意ハ我中ハ保く人目と
 ちのゆへハまきまうれんと
 一のなりたよりハかまゆ
 なまハまきまうれちか
 とまきまうれちか
 小足せまきまうれちか



前々満督教定
 現丹波諸君
 便物難
 可利
 心農
 夢身見
 漸繁芳



○詩魚乃つらまてたし
 り人かこよひまぬもせ
 よあやくしとせめい
 たまらうふたのみの
 この歌うたてしあけ
 ゆくやにむなをむか
 らぬかかけむとま
 よひる人のあぬま
 きれむめきしよん



示教
 本夜
 待た
 みれ
 う
 う
 終の聲



○橋立八天の橋立三舟
 後れ名所なりやれ字ハナす
 け字とらんが。○歌の意ハ
 何よの橋立の松吹とて
 よまに浦凡よをきりれこ
 ころもなへ入海に松す
 みつる月のかりるさけ
 しは松のあな

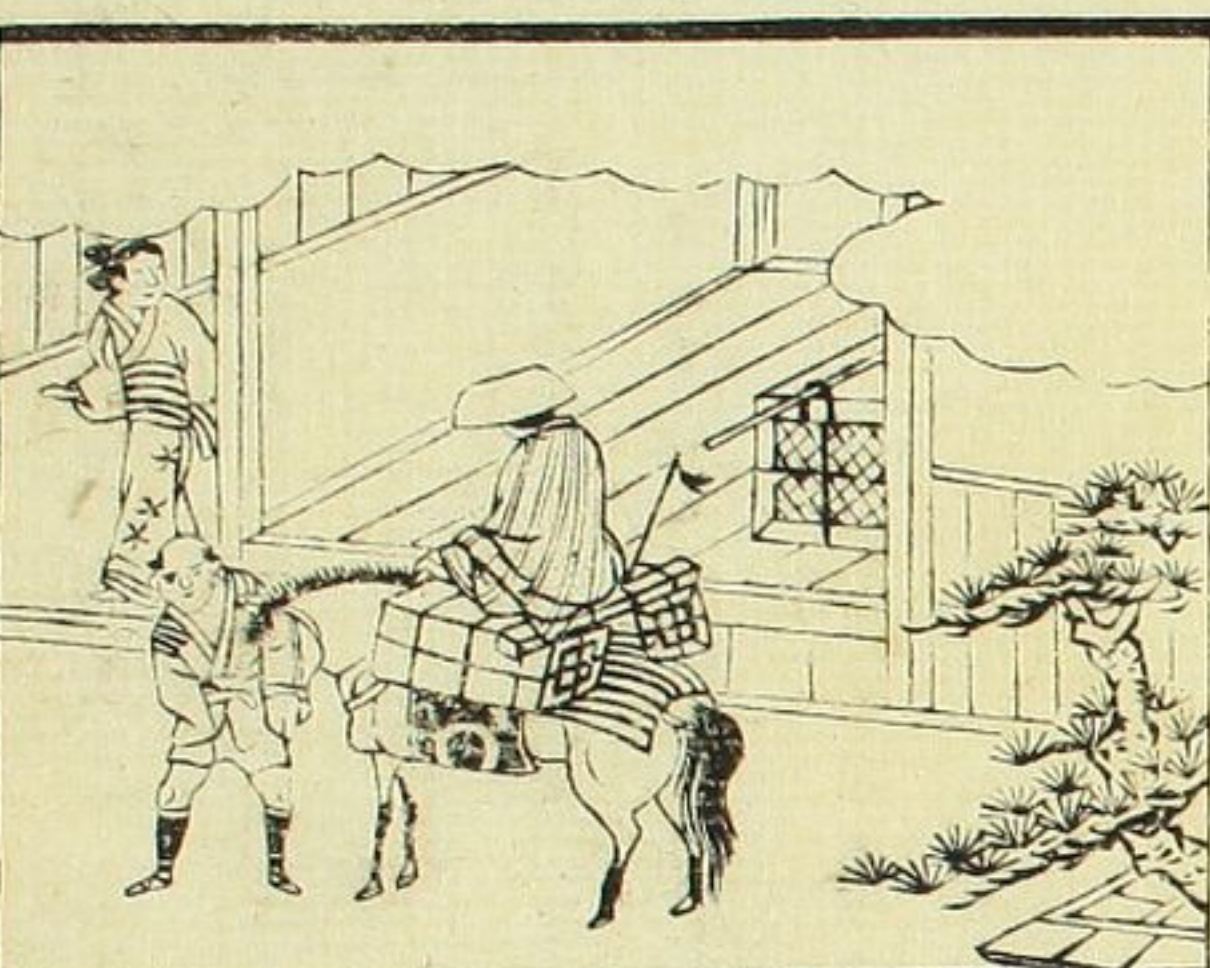


大江茂子
 けり
 松吹
 浦
 風
 入海
 すめ月
 遠



後廿四

○こまの旅の歌
 たまききき先たし
 高のそくれ松
 ぶらぶら
 り



藤原業清
 夕
 松
 入海
 すめ月



○ゆきなきとらんが何
 もわらぬあまのこ。○い勢の
 音ハんはつてそれい
 めぬえすしひて。み
 一人のんよりまらうて
 つとまきハ我身れ命を
 みのかりそれい
 ぶかくれご。井り人
 とすれま。てハ世
 なが。ても冷なさいの
 ちな。と志死もせず
 命のな。てあ。し
 又我身ハたえずその
 ふゆなれハ今ハる人
 校令下つてな。てあ。こ



○きすハき。のゆ。交
 野のハ河内ハ名。こ
 花すきハ穂。あ。す
 き。り。う。め。と。さ
 てんも。さ。す。て。こ
 してハ狩。れ。字。い。ひ。け
 たり。○歌の。う。ら。ハ。き。す
 の。な。交。野。の。こ。ゆ。こ。な
 す。き。よ。汝。ハ。種。あ。人
 奴。ま。の。こ。の。な。れ。も。
 け。の。う。ま。す。す。て。指。
 け。の。な。を。な。し。す。て。
 う。ろ。め。の。お。と。せん。て
 あ。人。の。ま。の。く。こ。な
 ん。と。制。し。て。う。ろ。こ



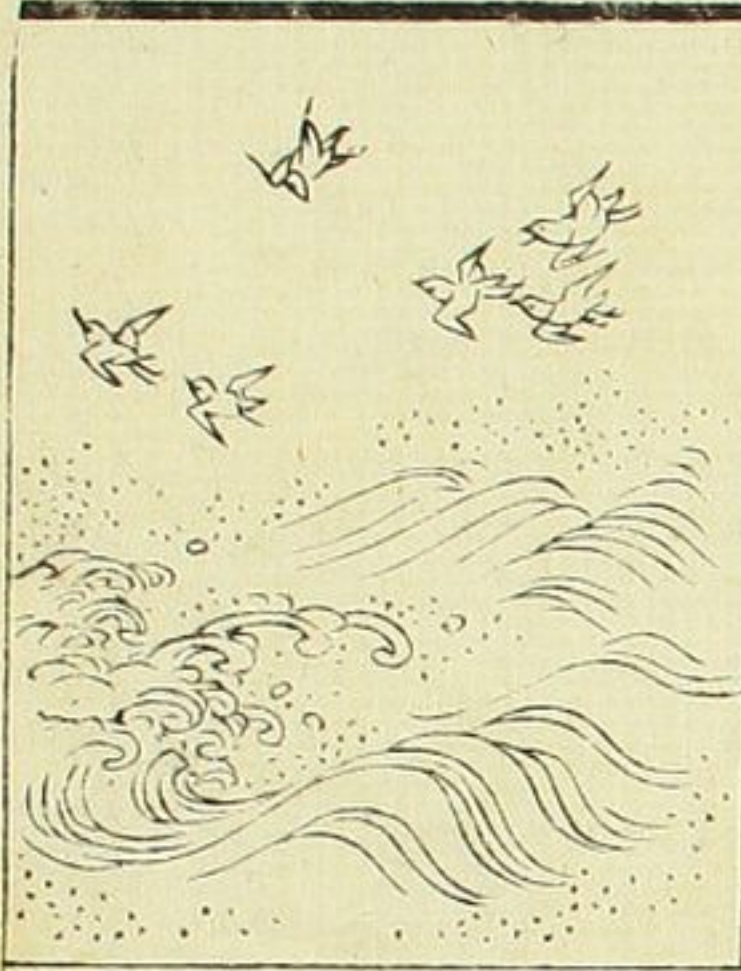
○真田入江下徳の名所
 ○歌のころはすうしつ
 もかき月けい今もうが
 してかうしつすまか
 け入江の秋は夜乃月と
 るこそ昔もすまか
 と西乃名よけてよめ



昔み昔
 うらば
 是らり
 前屋簀為教
 江の
 秋の月
 後九

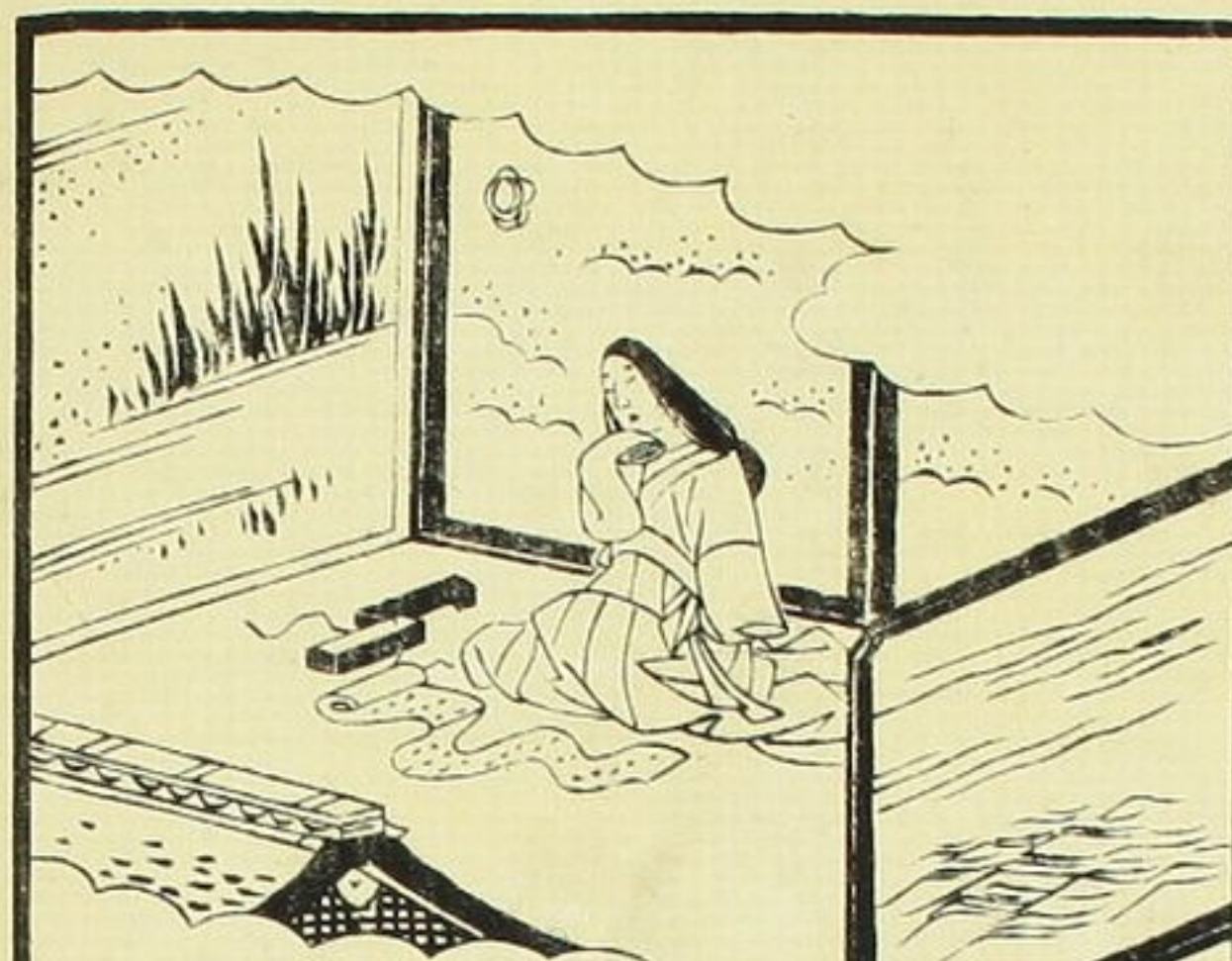
○のちぢせぬいすべて
 ふれ美の秋うかりても
 ぶぬとりまかうときい
 本とて松かいのたひ
 びつも同しとさかうあ
 のういんいん山とんか
 けしう常船名の山城の
 名所なる○歌のころは
 秋まかりてもとみちせぬ
 おさうらうらうときさやま
 ふうふうらけけい
 うらうねさだや風れ
 音のさげききそ秋
 ふうふうらけけい
 むうらうらうらうら

紅葉を
 山は
 風は
 音は
 秋を
 毎



○富島崎ハ津の國乃
 名所なる。○歌はくろく
 志す崎波舟こきてゆ
 けを舟も冬は風をけ
 けしやゆたぐまれば
 乃とれちとらう海をに
 立ち舟舟しててなく
 こしとよあゝはも風
 よつきて立ちかすものな
 せを夕はちとらう

おん せき せき せき せき
 津波伯仲
 風をみ
 滞中計
 夕那
 夕那
 夕那
 夕那



○歌は意人目つゝまの
 ふゆもうねんはなごま
 してふ人のいれまじな
 せしはあひいひいひ
 いひいひまうけても
 人たひいひいひ月日
 海もいれなはなは

のちれ
 後山前夜
 根も
 月日
 夕
 夕
 夕
 夕

○ヤ一ほとつこのねは
 一一人深うね一入とい
 ひ弟ふむもやむね八
 入も千入ともいなる
 る進ねヤ一けの園と
 山城の名所よふく
 いう。○歌のころはく
 かののさねや一ほとつ
 くらえし。ヤ一ほら
 園のゆらねなるをみ
 上ふいねとさうらめ
 こそあふれのすまやう
 といふもい。時海のやふひ
 紅葉のころのさうらめ
 くれむかくよめ。



後三十一

○忍山陸奥れ名所
 ○歌乃意ハそれ人の
 めふふのなまよつて
 も人目知志のすまやう
 それ人のつまねきんの
 真意うらむし
 なるちのささひてあ
 必ふはしりまも真
 字い山の緑そいつし





○秋のつらハ秋の歌なり。○
 歌のつらハ秋の歌なり。○
 ともいふことなれたる夏
 衣のひさかたのまて。
 風もつらハ秋の歌なり。
 風もつらハ秋の歌なり。

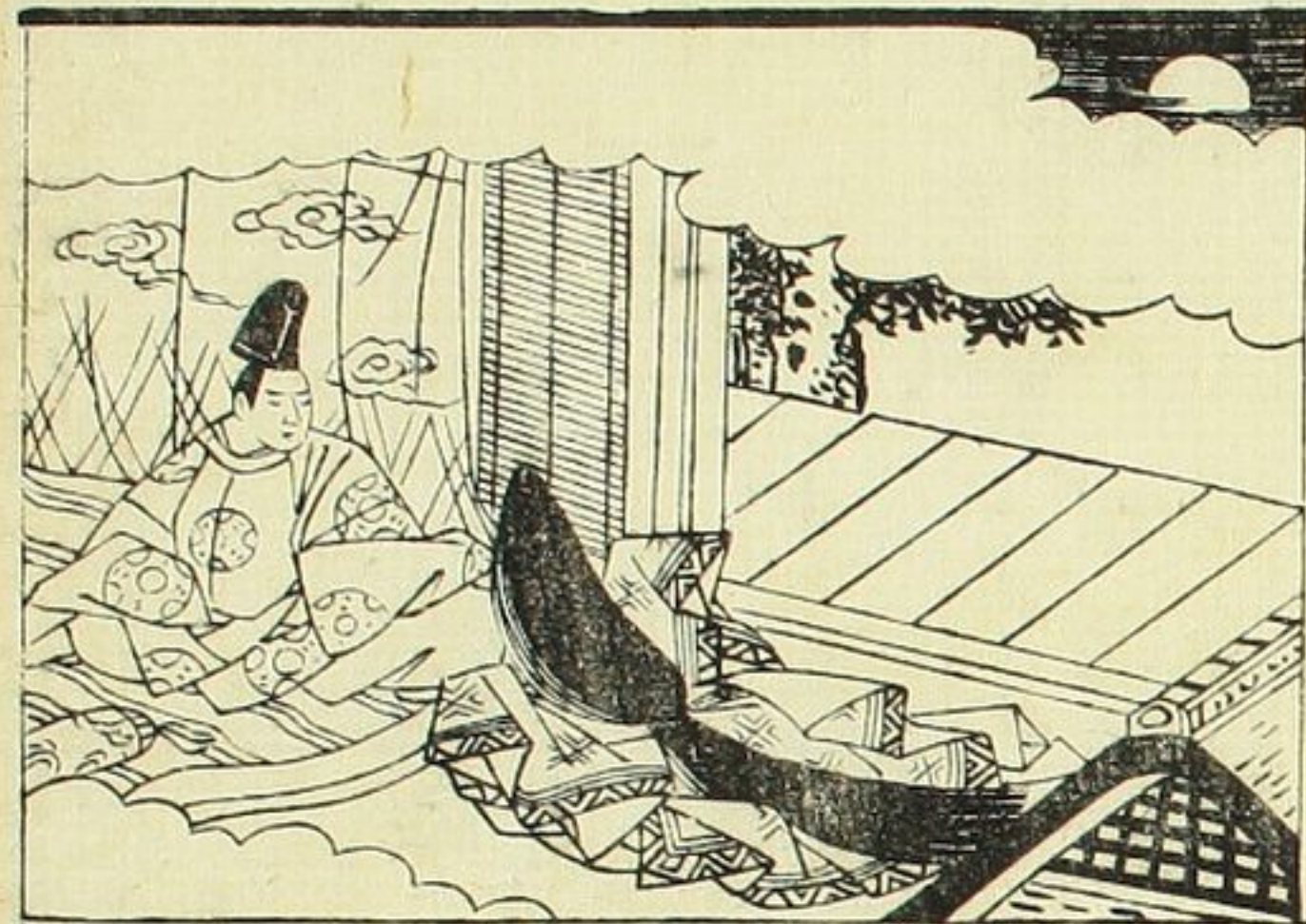


○此歌の意ハ今されてリ
 ことす。ことす。ことす。
 なるもの人ハ同く見え
 ね。毎々。毎々。毎々。
 きて。きて。きて。きて。
 それたう。それたう。それたう。

夏衣ハ
 いと
 安法は
 那
 うた
 ねに
 下ふ
 けし
 の
 つ
 せ

後
 三十八

安法は
 那
 うた
 ねに
 下ふ
 けし
 の
 つ
 せ



○あれハ嗚呼トお恨感
 ず詞ナリ。○歌の意ハ
 進ハシハたまたまめめ
 夜うとん感してそ
 月ひぬ人ハなほ
 も入す

あふ秋の
 月影を
 思ひ
 みる

永劫流す



○草枕ハ旅宿す
 ○山歌乃うろハあぬ
 中ガハ旅宿す
 ハあさり人里の遠
 およハ旅
 リ

後感法師
 衣摺音を
 生あ

星
 枕とぬ

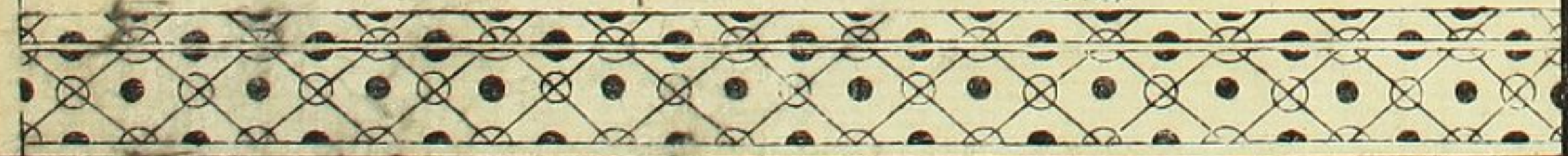
○此歌乃意ハ天の川とへ
 だてし牽牛織女の契
 日一夜の逢ひあはれ七月七
 日の夜に逢ひあはれ七月七
 中しすしあはれ七月七
 初秋の七日の秋ハ三井川
 としちかめて信守乃
 契は松ぞ乃まうなる
 とるいし今ハ中
 のななこれちきうのいづく
 はひのハさうさうのいづく
 てあはれあはれあはれあはれ
 うにさうさうの川乃なな
 も我身まじいあはれあはれ



後四十三



○あはれあはれあはれあはれ
 さうさうさうさうさうさう
 切なきところなな
 ○歌ハ意ハ五月雨とあはれ
 さうさうさうさうさうさう
 かさしれをさうさうさう
 さうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさう



○月早花すう衣いハ衣
 美れもなすうた衣いハ衣
 もますうすう衣いハ衣
 後うくもぬすう衣いハ衣
 ひうすうのなる衣いハ衣
 してハ小町歌もいせ
 めて衣いハ衣いハ衣
 乃衣いハ衣いハ衣
 衣いハ衣いハ衣
 きん衣いハ衣いハ衣
 けいしう。○此歌ハ衣いハ衣
 けいしうすう衣いハ衣
 てわす衣いハ衣いハ衣
 けいしうすう衣いハ衣
 衣いハ衣いハ衣



後四十七

○君代ハ天子ハ衣いハ衣
 けいしう。○此歌ハ衣いハ衣
 けいしうすう衣いハ衣
 てわす衣いハ衣いハ衣
 けいしうすう衣いハ衣
 衣いハ衣いハ衣



後四十七

○尾花といすきれ様よ
 たるはよもいまはくは
 ろはらよあはれはまの
 むえおねのいれはまの
 たしりり。○歌のうら尾
 花のうらまこあけまの
 ひ草のうらまはまの
 ふくまのねあひい入
 なまはまはまはまの
 袖のうらまはまの
 うらまはまはまの
 まいあまはまはまの
 五文字一かしてまはまの
 うらまはまはまの
 とよあまはまはまの



○富士も清見の関も駿河
 名取よてふ一の山よつひ
 烟なり法又関ハ海はな
 止まほのよはれはあ
 うれ名所もよせくま
 んたひいあはまはまの
 歌の意ハれむはまの
 山のよつひとく袖ハ法又
 関のよつひとく何ハ
 なれまはまのよつひ
 こまはまのよつひ
 かまはまのよつひ
 まはまのよつひ
 まはまのよつひ
 のうらまはまの





○おれら子くハ夢成さま
 すまじい。○母の意ハか
 らい。おれら。おれら。おれら。
 しなけり。おれら。おれら。
 く。おれら。おれら。おれら。
 の。おれら。おれら。おれら。
 おれら。おれら。おれら。おれら。

近衛白左大臣
 よろづ
 後
 おれら
 奉れ松風

 A black and white illustration of a man in traditional Japanese court attire (kariginu) sitting on a checkered mat and reading a book. He has a beard and is wearing a traditional cap. The illustration is framed by a decorative border at the bottom.

後
五十一



筒井尚堂書伯手澤
 洞上旭江畫宗縮圖

彫生 浪華 藤木金兵衛
 文化龍集丁卯夏新鑄

大坂書舗

葛城長兵衛
 向井八三郎
 多田勘兵衛

